

『山梨英和大学の現状と課題』（自己点検・評価報告書）
〔大学基準協会 2009年度「大学評価」受審版〕
の公表にあたって

本学は、2002年度の開学以来ほぼ毎年度、自己点検・評価活動に取り組み、その成果を報告書としてとりまとめるとともに公表に努めてきた。今般、2008年度の自己点検・評価活動を対象に初の“第三者評価”に臨み、財団法人大学基準協会による2009年度「大学評価」を受審した。

その結果、2010年4月1日付けをもって「貴大学は本協会の大学基準に適合していると認定する。認定の期間は2017（平成29）年3月31日までとする。」との評価結果を得るとともに、同協会の正会員として認定されることとなった。

本ホームページには、「財団法人大学基準協会による山梨英和大学に対する大学評価（認証評価）結果」、「山梨英和大学の現状と課題（自己点検・評価報告書）」及び「2008年度大学基礎データ」を掲載しており、学内において閲覧可能とするための報告書の設置及び関係各位への送付と併せて社会に公表するものである。

今回の大学評価（認証評価）結果において、本学は教育内容・方法等に関する「大学に対する提言（助言）」をはじめとして正鵠を得た数々のご指摘をいただいた。そのいずれもが開学後8年を経過した大学としては当然改善すべき事項であり、同時に今後発展させねばならない事項であることから、提言を真摯に受け止め、幾つかの点については既に具体的方策に着手したところである。また本報告書に記載してある改善項目を含めて向こう3年間のロードマップ策定作業がほぼ完了している状況である。

このことは、当該評価を受審する際の本学の意味表明—“本学のミッションを後の世代に継承するため、将来への確固たるビジョンのもとに、従来にも増して不断にかつ果敢に、痛みを伴う改革さえも断行する”—が、評価結果の公表という一里塚に辿り着いた現在、一層の組織的一体感を備えるに至ったことを確信させるものである。

総評において述べられた「今後も、大学全体で自らの組織について点検・改善を促すような組織作りに向けて努力することを期待したい。」との提言を肝に銘じつつ、本学の内部質保証体制の充実と発展を目指して着実かつ効果的な推進活動を展開することこそが、本学の高邁なミッションの具現化に寄与することは論を待たないであろう。

本大学評価（認証評価）に係る申請準備から評価結果の公表に至る一連の経過における、財団法人大学基準協会の各評価委員及び事務局担当者によるご指導ご鞭撻に対する心からの謝意とともに、今後とも変わらぬご支援並びにご協力を賜りたく、この場を借りてお願い申し上げる次第である。

2010年4月1日

山梨英和大学 学長 風間重雄